

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2014年6月18日 Vol.122 発行者:森田正樹 編集:広報部

〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4F 秘書国際課内

TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

平成26年(2014年)度年次総会が終わりました。

今年もフレンテの西宮市国際交流協会会議室にて5月31日(土)午後3時から、第16回年次総会が開催され、会員84名(内、2団体)中51名(27名当日ご出席、委任状24名)の参加をもって、各種報告、および新年度事業案、予算案、役員人事案を可決いたしました。(議決事項は下記の通り)。当日は須藤秘書・国際課長、岡林秘書・国際課職員のご参加をいただきました。

総会終了後は恒例の親睦会。会員の土屋さんからワイン、フリアンドの谷口さんからフランスパン、ロッテガロンヌ商会さんからアジャンのプルーンの差し入れを頂戴し、また、5月初めに来西された、アジャン市長のご子息ブリュノさんからの土産のビュゼワインで乾杯。波多さん差し入れのジャガイモグラタンは、かつてロット・エ・ガロンヌ旅行の際に、ギョームさんのお母さんの陶器の店で購入された思い出のグラタン皿にて供されました。その他、参加会員皆で買い出し、盛り付けした料理やお酒を囲み、一人ひとりの近況報告を交えつつ、楽しい親睦の時間を過ごしました。

今年は11月に、ロット・エ・ガロンヌの友人たちのグループを迎える予定です。私たちならではの、おおらかで温かい「おもてなし」で、一層、草の根国際交流の絆を深めましょう。



議決事項:

26年度役員: 会長: 森田正樹、事務局長: 佐藤祥子、事務局次長: 藤枝知子
会計: 藤川修平、会計監査: 川野謙一(新)、総務: 多田貴子
広報: 池田壺和、美術: 森田正樹、岡田順子、
仏語: 槇尾裕美子、田中晴子、牛田洋子

平成26年度事業計画

- * マリーさん一行(4名) 来日受け入れ(4月3日~18日) …実施済
- * 年次総会および懇親会…5月31日(日)
- * 月例定例会…基本的に毎月第3水曜日(8月を除く)
- * ロット・エ・ガロンヌからの一行来日受け入れ(11月9日~23日予定)
- * 忘年会…12月:
- * 国際交流デー参加…平成27年2月
- * 交流紹介パネルの作成

*美術部：絵画・写真展・・・4月15日（火）～20日（日）…実施済

*仏語部：LeGからの来客の受け入れに際しての通訳・観光同行他

Bonjour la France（フランス人による講演会）の企画運営

*仏語教室：2クラス（①入門、②初級～中級）各月2回

*広報部：会報年11回（8月は休み）発行。ホームページの管理

平成26年度予算（単位：円）

*収入の部：年会費	176,000	*支出の部：国際交流協会年会費	20,000
国際交流協会助成金	50,000	事業費	260,000
国際交流デー収益	20,000	補助費	40,000
雑収入	5,000	交通費	21,000
預金利息	50	広報費	80,000
前年度繰越金	323,131	会議費	10,000
合 計	574,181	事務用品費	15,000
		交際費	30,000
		積立金	50,000
		予備費	48,181
		合 計	574,181

会費納入のお願い

会員の皆様へ

会計担当の藤川です。日頃は当会の事業活動に大変ご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございます。
今年度は、既に会長のマリーさん達が4月に来日され交流事業が始まっています。秋には再び来日される
予定で昨年以上に盛んな交流が期待されます。

つきましては、平成26年度の会費の納入がお済みでない方々へのお知らせでございますが、当会預金口座に直接会費を振込んでいただきますようお願いいたします。

なお、年会費は**個人会員 2,000円（団体会員 10,000円）**です。

兵庫六甲農業協同組合 西宮支店 店番号 7213 - 043

口座番号：普通 0039848

エヌレグ

口座名義：NLeG市民の会 会長 森田正樹

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

事務局：TEL：0798-35-3468

FAX：0798-32-8673

フランス美術あれこれ6

森田 正樹

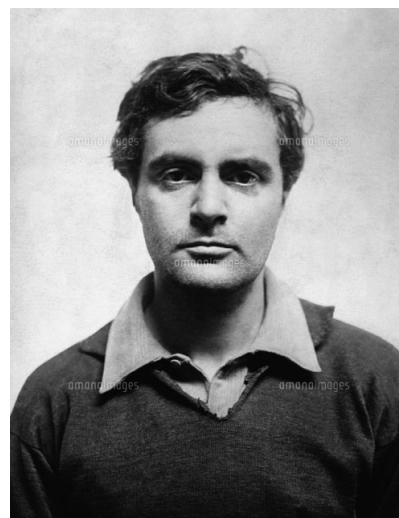
エコール・ド・パリ2 モディリアーニ

灰色のアーモンドのような瞳、細長い首の裸婦といえばそうモディリアーニです。

アメデオ・モディリアーニ Amedeo Clemente Modigliani

1884年7月12日 - 1920年1月24日

トスカーナ地方のリヴォルノでユダヤ系イタリア人の両親のもとに末っ子として生まれる。フィレンツェとヴェネツィアで学んだ後、1906年パリに移り、セザンヌ、ゴーギャンの作品から大きな影響を受け、スーティン、キスリング、藤田嗣治らエコール・ド・パリの芸術家と交わる、1910年サロン・デ・ザンデパンダンに出品。1909年から14年までブランクーシの勧めで彫刻に専念する。アフリカ、オセアニアなどの民族美術に影響を受けた作品を作っていたが、資金不足と健康の悪化により断念して絵画制作に戻る。1917年12月、生涯で唯一の個展を開催し、裸婦のシリーズを発表。1920年パリにて死去。



先月のキスリングが「モンパルナスの王」といわれるほど世俗的成功を収めていたのに対し、モディリアーニは不遇、貧困、飲酒、夭折など「呪われた画家」というイメージそのものの画家といえます。

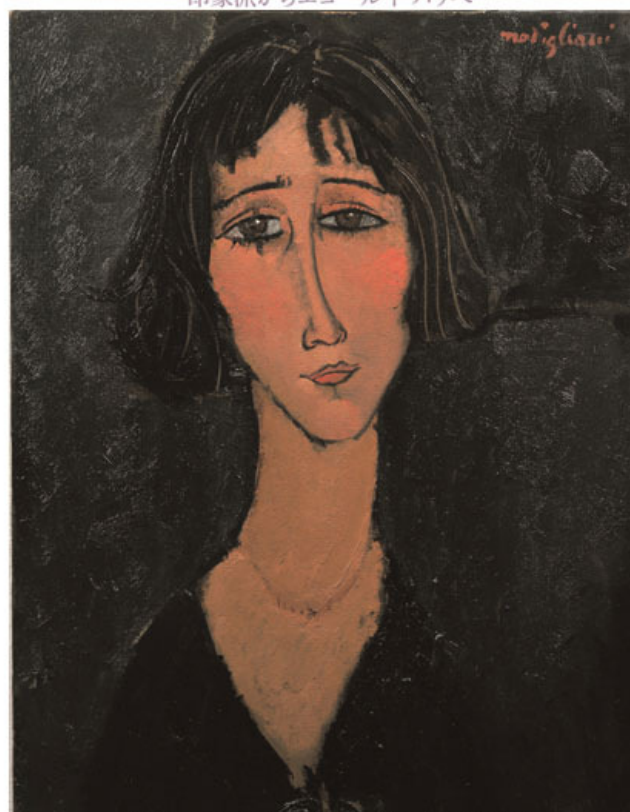
生まれた年に実家が倒産、10代に結核にかかり、ただ一度の個展は、絵は1枚も売れず、5枚の裸婦像が風紀紊乱の罪で警察に押収されただけの結果に終わります。絵が売れ出したのは最晩年からで、1919年ロンドンでのフランス絵画展の出品作が売れ始めますが、時すでに遅く、貧窮の生活の中で肺結核と髄膜炎を併発し 35歳の生涯を終えます。友人のキスリングらが、真冬に暖房一つない部屋で寝ている彼を発見しますが手遅れでした。

さらに不幸は続きます。彼の絵のモデルであり妻となったジャンヌは、彼の死の2日後、1歳2ヶ月の長女を残し実家のアパートの6階の窓から飛び降り自殺します。胎内に8ヶ月の赤ん坊がいました。ジャンヌの遺族の反対で、2人の遺体がペール・ラシェーズ墓地に一緒に埋葬されたのは10年後でした。

死後、キスリングとモディリアーニの評価は逆転します。つまり栄光に満ち天寿を全うした芸術家の作品は、大抵の場合死後その評価を下げるが、不幸のうちに夭折した芸術家の作品は、

夢見るフランス絵画

印象派からエコール・ド・パリへ



アメデオ・モディリアーニ《バラをつけた若い婦人》1916年

2014 4.12 → 6.1

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

むしろ逆に死後その評価を高めるとい一例となります。実人生における不幸こそが、芸術を完成させるという幻想が世に溢れているのでしょうか。そんな世間の評価にかかわらずモディリアーニの残したさくひんは魅力に満ち溢れています。

「夢見るフランス絵画」展は日本のある収集家が集めた作品で、兵庫県立美術館の後、東京、北海道、栃木に巡回します。人間の内面への深い洞察に基づく肖像画、長円形の頭部と細長く引き延ばされた首「バラをつけた若い夫人」1916年の作品です。

モディリアーニで思い出すのが、大阪新美術館建設準備室が所蔵している「髪をほどいた横たわる裸婦」です。1917年の生涯唯一の個展に出品された作品で、濡れたような強いまなごしの裸婦が健康的な肢体を誇るかのようにこちらにむかって微笑んでいます。福島繁太郎が所有していましたが、その後1989年に大阪市が19億円で購入し当時話題になりました。



準備室（旧 大阪市立近代美術館準備室）は、購入した作品も多数ありますが、個人から寄贈された作品も所有しています。特に、山本發次郎から贈られた佐伯祐三の40数点の作品は質量とも日本一の佐伯コレクションです。各地で開催される佐伯祐三展は全てこのコレクションを借りての展示となっています。

吉原治良の作品も20点あるし、早く美術館を建てなよ ハシモトさん。

(参考文献)

「夢見るフランス絵画展」図録	2014年	兵庫県立美術館
「エコール・ド・パリ殺人事件」	2008年	深水黎一郎

カランドリエ 「サッカー」

藤枝 知子

2014年6月は、サッカーワールドカップの開催です。

日本も1993年にJリーグができてからというもの、年々サッカー人気と実力が高まり、海外人気チームで活躍する日本人選手のニュースは、連日のように報道されています。

ご存知のみなさんも多いと思いますが、フランスでは、サッカーとは言わず、フットボールか略して単にフットとだけ言います。ワールドカップは、クープ ドゥ モンドゥ と言います。

日本の代表チームは、サムライブルーと呼ばれますが、フランス代表は ル・ブルーと呼ばれます。2国とも青とは、似ていますね。



フランスで長年、サッカー界のスーパースターと言えば、ジダンです。

みなさん2006年のワールドカップの決勝戦を覚えてらっしゃいますか？イタリア代表のマテラッツ



イーから侮蔑的発言(人種差別と言われています)を受け、怒り心頭のジダンが相手に頭突きを食らわし、その結果レッドカードで即退場し、フランス代表はイタリア代表に敗れ準優勝、ジダンはそのまま引退してしまうというという予想だにできなかった結末でした。

サッカーに疎い私ですら、一瞬声を失ったほどです。決勝戦でしかも英雄ジダンの引退試合ということで、あーれー れ ぶるー ~!!

(フランス代表がんばれ~!!)とテレビの前で声枯らして声援を送っていたフランス国民の心臓を止めそうな衝撃でした。子ども服にジダンブランドがあり、結構な人気で、息子のクラスの男の子たちもいいだろう~♪と胸はってジダンのトレーナーを自慢げに見せていたものです。

そんな、子どもたちにも大人気のジダンの引退劇は、翌日の幼稚園でも大騒ぎでした。幼児ですら心動かす大事件なので、フランスのテレビでは「イタリア代表選手は何を言ったのか」などの分析で連日報道の嵐でした。

アルジェリア系移民二世のジダンは日本の人気アニメ「キャプテン翼」の影響もあり、サッカーを始めたと言われています。

世界中で放映された人気番組ですが、フランスでの番組名は「オリーヴとトム」という名前です。翼という少年が主人公の、サッカー選手の成長物語なのに、フランスでは何故かもう1人登場人物との2人名タイトルになっています。翼の名前もオリーヴ(オリヴィエの愛称)と、フランス風になっています。現在のアニメ番組は、フランスでも日本人名のまま使用されることが多いですが、1980年代ではフランス設定になっていたようです。



フランスで「お金持ちのスポーツ」としては、「フェンシング」や「フィギュアスケート」が挙げられますが、「貧しい者のスポーツ」と言われているのが「サッカー」です。(あまり適切ではない表現ですが、実際に当地で聞いた表現なのでここに書きます。)

特別な場所や高額 of 道具が必要で敷居の高いスポーツと違い、サッカーは、空き地などの広い場所と、ボール1つで気軽に、そして誰に対しても平等なチャンスが与えられているスポーツです。

手軽な遊びとして始めたサッカーが、出自に関係なく才能と練習により上達し、自分と家族に富と名誉をもたらすスポーツへと変化し、かける意気込みが半端ないと感じます。普段遠慮がちに暮らしている移民の人々がより一層移民国へ溶け込む機会であり、活躍できれば国の誉れになります。

世界中の人々の夢と希望を乗せるスポーツがサッカーと言えるでしょう。

日本代表がんばれ。

そして、

あーれー れ ぶるー(フランス代表がんばれ)。

